

学校経営理念	児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。
	<目指す学校像> ○確かな学力を育む学校 ○校風・伝統を大切に、気持ちのよい挨拶が交わされる爽やかな学校 ○清掃が行き届いた清潔で美しい学校
	<目指す児童像> 【知】伝え合い、学び合う子…進んで学び、深く考え、行動できる 【徳】思いやりのある子…自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく
	【体】健やかな子…忍耐強く、健康な心と体をもつ
	<目指す教師像> ○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師 ○豊かな人間性をもち、使命感にあふれた教師 ○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師 ○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
I 豊かな心の育成	(1)自己肯定感の育成や人間関係づくりを進める	①i-check(年2回、1年生のみ12月に1回)を実施し、学級集団の状態を的確に把握して、よりよい学級集団づくりを進める。 ○1回目より2回目の数値を改善 ○i-checkのEグループ(自己肯定感が低く、人間関係に悩みを抱えている可能性がある)0名	本年度も、i-checkを年2回実施し(1年生は12月に1回)、学級の状況や児童一人ひとりの様子を把握し、よりよい学級経営に役立てた。結果として、Eグループに該当する児童は2名(不登校児童を除く)で、自己肯定感の低さがうかがえた。Eグループの割合は1%と低いものの、不登校傾向の児童は2名おり、引き続き注意深く支援を続けている。なお、新たな不登校児童は確認されていない。学級内の大きな混乱や暴力行為はなく、児童が安心して過ごせる環境が保たれている。一方で、Eグループや不登校傾向の児童への支援として、校内支援会の開催、スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)・福祉や医療機関との連携を強化し、改善に向けた取組を進めている。	B	児童が安心して生活できる学級・学校づくりが進んでいる。学級満足度も全国平均を上回り、先生方の丁寧な関わりの成果が表れている。児童が落ち着いて過ごせる環境は、学びや活動の意欲につながる。今後も児童の気持ちや特性を踏まえ、よりよい学級経営に努めてほしい。	B	中期経営目標(1)を達成するために、児童が安心して過ごせる学校(学級)づくりを推進する。一人一人の個性や多様性を尊重し、授業だけでなく前教育活動を通じて互いに認め合う風土を育む。そのために、生徒指導の四機能(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」)を意識し、教科指導と生徒指導を一体化した授業づくりを進める。これらを全教職員が共通理解し、継続的に実践する。
		②道徳教育を充実させる。(授業研究・道徳意識調査年2回) ○道徳意識調査で、「自分にはよいところがあると思う」、「頑張りたいことや目標をもっている」、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	各学級において、道徳の授業は計画的に実施され、考えを深め、議論する授業の充実を図った。道徳意識調査の「自分にはよいところがある」という問いに対する肯定的評価は、1学期末83.5%⇒2学期末85.8%(強肯定63.4%⇒55.0%)となり、目標値には届かなかった。「頑張りたいことや目標をもっている」は1学期末92.3%⇒2学期末93.4%(強肯定73.2%⇒69.3%)、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」は1学期末94.8%⇒2学期末97.4%(強肯定66.0%⇒66.8%)と、目標値に近づく結果となった。	B	児童は自分に自信を持ち、前向きに成長している。自分の良さを認める力がしっかりと育まれており、日々の学びや活動に積極的に取り組んでいる。道徳の授業や家庭・地域との連携が、児童の自己肯定感を高める大きな支えとなっている。今後もこのような環境が維持され、児童が自分を大切に思えるような取組みが続けられることを期待したい。	A	短期経営目標①については、学級における「個人の心の安全」の確保を重点的に進め、Eグループ(自己肯定感が低く人間関係に悩みを抱えている可能性がある)の割合をできる限り減らすことで、安心できる学級環境を築く。②については、道徳教育推進教師を中心に、校内研修や授業内容を充実させるとともに、家庭への啓発活動を強化する。
		③人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。 (縦割り班活動の充実やことばを大切にすることの醸成など) ○縦割り班活動の充実(縦割り班活動の回数を昨年度以上実施) ○「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の取組を実施し、「ふわふわ言葉を使っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「ちくちく言葉を使っていない」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	縦割り掃除、縦割りレクリエーション、全校集会などを計通り実施できた。「ふわふわ言葉を使っている」の肯定的評価は、1学期末96.1%⇒2学期末96.4%(強肯定62.7%⇒61.9%)、「チクチク言葉を使っていない」は、1学期末91.1%⇒2学期末91.4%(強肯定60.0%⇒61.7%)となり、肯定的評価は目標を上回る一方で、強肯定は目標に届かなかった。友達を思いやる言葉遣いが広がり、学校全体の落ち着きが増している。	B	児童が互いの頑張りを成長を認め合う姿が見られる。友達の良いところを見つけ、伝える習慣が育っている。温かい言葉が行動につながるよう、優しさを大切にする学級づくりを続けてほしい。	B	③については、縦割り班活動や集会活動を計画的に実施し、学年間の交流を深めるとともに、思いやりのある言葉を増やし、不快な言葉を減らす(なくす)取組を通年で全学級に広める。④については、いじめが不登校の要因とならないよう、人権教育や発達支援の生徒指導を充実させ、早期発見と未然防止に努める。
		④学校生活アンケート(いじめ調査)を実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価100%	年間3回のいじめ調査を行い、日頃の取組を検証しながら指導に活かした。「学校生活が楽しい」と回答した児童の肯定的評価は、1学期末92.6%⇒2学期末92.1%(強肯定65.8%⇒67.4%)と目標値に近づいた。「いじめはどんなことがあってもいけない」とする肯定的評価は、1学期末98.5%⇒2学期末98.4%(強肯定89.7%⇒89.8%)と、高い水準を維持した。なお、いじめによる重大事案の発生はなかった。	B	児童の多くが学校生活を楽しんでいる。授業や行事での笑顔が多く、先生方の細やかな指導の成果が表れている。一方で、「いじめは絶対にいけない」という意識をさらに定着させる必要がある。日頃から未然防止や早期発見に努め、児童が安心して過ごせる環境を整えてほしい。	B	
	(2)読書活動の充実を図る	①朝の読書、読み聞かせ、図書館を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸出し冊数 月平均:低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊以上 ○貸し出し冊数の学年、学級差がないように読書の習慣を身に付けさせる。	1月末時点の一人あたりの図書貸出冊数は、低学年15冊、中学年10冊、高学年9冊となり、いずれの学年ブロック(1・2年/3・4年/5・6年)も目標を上回った。児童の読書習慣は定着しているが、貸出冊数の少ない学級もあり、引き続き支援や声かけが必要である。	B	読書習慣が定着し、全学年で目標を達成している。本を読むことは想像力や言葉の力を育み、心を豊かにする。デジタル機器の利用が増える中でも、本と触れ合う時間を大切にし、読書の楽しさを伝えてほしい。	A	図書担当と図書支援員が中心となり、読書活動(朝読書、読み聞かせ、読書指導)の充実を図るとともに、図書館の環境整備(蔵書の充実、レイアウトの見直し)を進める。特定の学級だけに貸し出しが偏らないよう、全校で協力しながら読書週間の設置や学級内での良書の紹介など、読書習慣を促す工夫を行う。
	(3)基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める	①生活リズムの点検に取り組み、生活リズムの改善を意識させる。 ○生活点検の朝起きる時刻(全学年:6時半)全ブロック80%以上朝食を食べている、全学年95%以上	生活点検における「朝6時半までに起床できた日が4日以上」の児童割合は、1学期65.0%、2学期68.0%となり、目標値には届かなかった。「朝食を食べている」の割合は、1学期95.0%、2学期96.3%と、目標を達成した。	B	朝食をとる児童の割合は目標を達成しているが、質の良い睡眠や朝食の大切さを引き続き伝えていくことが必要だ。学校・家庭・地域が協力し、児童の健康を支えてほしい。朝の活動が一日を左右することを意識できるよう、引き続き働きかけをしてほしい。	B	保護者向け学校評価アンケートの結果から、社会のルールやまわりを守る指導への期待が最も高かった。中期経営目標(3)の達成には、家庭との連携が不可欠であり、保護者や地域と協力しながら取組を推進する。
		②あいさつや掃除のできる児童を育てる。 ○時・場・礼アンケート 「チャイム席を守っている」、「無言ですみずみで掃除できている」、「朝や帰りの挨拶や、返事ができている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」肯定的評価85%以上(強肯定65%以上)	「チャイム席を守っている」の肯定的評価は、1学期末98.2%⇒2学期末97.7%(強肯定77.7%⇒74.1%)、「無言ですみずみで掃除ができている」は、1学期末99.0%⇒2学期末99.0%(強肯定80.9%⇒79.3%)、「朝や帰りの挨拶や返事ができている」は、1学期末97.3%⇒2学期末97.1%(強肯定72.6%⇒73.2%)、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」は、1学期末87.5%⇒2学期末87.3%(強肯定61.9%⇒62.4%)となった。おおむね目標値を達成したものの、「呼びきりせずに名前を呼ぶ」項目では、引き続き意識向上が求められる。	B	児童は毎日元気に遊び、友達との関わりを楽しんでいる。挨拶も明るく、自分の役割をしっかりと果たす姿が見られる。小さなルールを守ることが、社会での生きやすさにつながる。掃除や縦割り班の活動を通して、自分の行動に責任を持てる環境をさらに充実させてほしい。	A	短期経営目標①については、生活習慣の改善を図るため、学期の始めに質の良い睡眠と朝食の大切さについて児童・保護者へ啓発し、意識向上を図る。②については、野市中学校区の重点取組である「チャイム席・掃除と挨拶の励行」を来年度も継続する。児童間での名前の呼び方についても、不快な言葉を減らすための取組を続ける。③については、児童の主体性を尊重し、教師主導ではなく、児童が自主的に行動できる環境づくりを進める。今後も、非認知能力(自分に関する力・人と関わる力)の安定と向上を目指し、生活リズムの確立や時間管理、挨拶や清掃の習慣化を学校・家庭・地域が一体となって支援する。
		③「くらしのきまり(学校・夏冬休み)」を遵守する児童を育てる。 ○道徳意識調査「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上)	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価は、1学期末97.6%⇒2学期末96.4%(強肯定67.5%⇒57.2%)となり、肯定的評価は目標を達成したものの、強肯定は届かなかった。児童の規範意識は高く、校内での暴力行為などの問題行動は発生していない。	B	学校のきまりがよく守られ、落ち着いた環境の中で児童が安心して学んでいる。上級生が下級生の手本となり、学年を超えた良い関係が築かれている。児童が自主的に行動し、互いに支え合いながら成長できる学校づくりを進めてほしい。	A	

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
Ⅱ 学力の向上	(1)子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る	①児童の考えや表現を大切にしたい伝え合い、学び合いのある授業を行う。 (東小学校授業スタンダードの実施) ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」、「授業に主体的に取り組んでいる」、「タブレットを学習に活用することができる」肯定的評価90%以上(強肯定70%以上) ②教科等の学習で、ICTを活用した授業や校内研修を充実させる。 ○低・中・高ブロックに別に研究授業を行う。 ○ICT(クラウド、児童用タブレットPC、電子黒板等)活用に関する研修を深め、授業改善につなげる。 ○「タブレットを使って調べたり学習したりすることができる(4年生以上)」肯定的評価95%以上(強肯定85%以上)	児童が自ら考え、表現し、伝え合い、学び合う授業を推進してきた。「授業がわかる」の肯定的評価は、1学期末94.2%⇒2学期末94.6%(強肯定64.2%⇒66.1%)、「授業に主体的に取り組んでいる」は1学期末95.0%⇒2学期末96.7%(強肯定65.4%⇒65.7%)であった。また、4年生以上の「タブレットを学習に活用することができる」肯定的評価は88.2%(強肯定64.7%)と、目標値に近づいている。	B	授業研究の推進により、児童の主体的な学びが育まれている。先生方が互いに学び合い、授業改善に努めていることに感謝している。今後も児童が考え、伝え合い、学び合える授業を続けてほしい。	B	中期経営目標(1)の達成に向けて、全校研修やブロック研修、ICT活用研修を実施し、児童が主体的に学び、深い理解につながる授業改善を組織的に推進する。 短期経営目標①については、「思考力・判断力・表現力」、「見方・考え方」の育成を目指し、授業の構成(目標設定・発問・ゴール設定・振り返り・習熟)をより効果的に展開する。「授業が分かる」「主体的に学習している」と感じる児童の割合を70%以上にすることを目標とする。②については、ICTを活用した学習環境の整備を進め、児童が自分の学習を調整しながら主体的に取り組める授業づくりを目指す。AIドリルの活用による個別最適化学習を進めるとともに、タイピング技術の向上を支援する。教員についても、ICTを活用した個別学習・協働学習の実践例を共有し、授業の質を高める。
	(2)子どもたちの基礎学力の定着と、学力の向上に努力する	①これまでの全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果を分析し、日々の授業改善に生かす。 ○標準学力調査において、全学年全国平均を上回る。正答率30%以下の児童0名 ○全国学力定着状況踏査で、算数・国語ともに全国平均を3ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童0名(6年) ○高知県学力定着状況調査で、算数・国語・理科ともに県平均5ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童0名(4・5年) ②基礎基本の確実な定着を図り、個別の支援を行う。 ○TT体制で指導にあたる。 ○朝のウォーミングアップ・放課後パワーアップ教室を充実させる。特に朝のウォーミングアップを地域の方にも手伝ってもらい、基礎基本の徹底を行う。 ③特別支援教育に全校体制で取り組む。 ○定期的(月1回以上)に校内支援会を開催する。 ○SCやSSW、特別支援教育巡回アドバイザー等との連携を密に取り、チームで課題解決にあたる。	4月に実施された全国学力・学習状況調査(6年生対象)では、国語が全国平均を上回った一方で、算数は全国平均をやや下回った。特に国語の記述式問題では全国平均を大きく上回る結果となった。12月の標準学力調査(1・2・3・6年生対象)では、各学年とも全国平均並み、もしくはそれを上回る成績を収めた。本校の正答率と全国平均を比較すると、国語がわずかに低い傾向があったが、正答率30%以下の児童は国語3名、算数7名であった。また、12月の高知県学力定着状況調査(4年生:国語・算数、5年生:国語・算数・理科)では、両学年とも全教科で県平均を上回った。正答率30%以下の児童は両学年とも算数で、4年生10%、5年生5%であった。	B	学力調査の結果から、基礎学力が着実に定着していることがわかる。日々の授業や家庭学習の積み重ねが、児童の学力向上につながっている。考える力や表現する力もさらに伸ばしながら、組織的に学力向上を進めたい。児童一人ひとりに応じた支援を充実させ、学ぶ楽しさを実感できる環境づくりをお願いしたい。	B	中期経営目標(2)については、認知能力(学力)のさらなる向上を目指し、本校の研究主題「主体的に働き、考え、表現する子の育成」をもとに、児童が自分の考えを持ち、仲間と協力しながら学ぶ力を伸ばす授業づくりを進める。 短期経営目標①については、全国学力・学習状況調査(4月)および標準学力調査(5月)の結果を基に児童の課題を把握し、全学級で授業改善と個別指導を実施する。学力調査の全国平均を上回ることを目指し、特に正答率30%以下の児童を減らす取組を進める。5年生以上は全国平均より3ポイント以上向上を目標とする。②については、加配教員や生活・学習支援員、保護者・地域ボランティアを活用し、国語と算数の基礎学力の向上を図る。③については、年度当初から計画的に校内支援会を開き、児童の課題に応じた指導・支援を実施する。保護者や教育機関、医療・福祉機関と連携し、児童に適した支援を行う。
	(3)家庭学習の習慣化に努める	①家庭と連携し、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行う。 ○家庭学習を「しない」児童の割合を0%にする。 ○タブレットの持ち帰り(個に応じた学びの保証)	家庭学習を全く行っていない児童は0名であった。宿題忘れは若干見られたものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。個々の特性や学習理解に応じた宿題の量や質を工夫し、タブレット等を活用した個別最適な学びを推進する必要がある。高学年においては、タブレットの持ち帰りが定着しつつある。	B	家庭学習の習慣が徐々に定着しつつあり、児童が学ぶ楽しさを実感できる機会が増えている。学習の成果を感じられるよう、一人ひとりに合った課題や学習方法を工夫してほしい。学校と家庭が連携し、自主的な学びを支えていってほしい。	B	家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。児童が自主的に学習する姿勢を育むために、学習内容や分量には個別に配慮し、タブレットの持ち帰り学習も活用する。また、学年に応じた宿題の工夫や学習支援を充実させていく。
	(1)保護者や地域との連携を密にし、信頼される開かれた学校を進める	①保護者や地域に対して学校通信等により学校情報を積極的に発信する。 ○学校通信「三宝」、学年通信を月に1回以上、校長通信「野市東」を月2回程度のペースで発行する。 ○学校Webページを適宜更新する。 ○学校評価書を公開する。 ②児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。 ○学期ごとに安全点検を行う。 ○避難訓練(防災・防犯)を年間5回以上行う。 ③保護者や地域の方々の学校支援の充実を図る。 ○コミュニティ・スクール、地域学校協働本部事業を計画的に推進し、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。	学校通信は月1回、校長通信は月2回のペースで発行できたが、発行の間隔が不均一であった。学校Webページについては更新が滞っている状況である。保護者アンケートの「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的にやっていると思うか」の肯定的意見は91.4%で、昨年度より9.6%向上した。学年通信は月1回発行されているが、学級通信の定期発行が難しい学級もある。学校評価書については、計画書(公開済み)と報告書の公開を予定している。	B	学校便りや学級便りを通じて、児童の成長や学校の様子が保護者にしっかりと伝わっている。学校の取り組みや児童の頑張りを共有することで、家庭との連携も深まっていける。発行の頻度を調整しながら、今後も情報発信を続けてほしい。	B	中期経営目標(1)の達成には、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。地域と連携し、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 短期経営目標①については、学校や学級での児童の成長を伝える情報発信を充実させる。学年便りや学級便りの発行についても定期的な発信を継続する。②については、不審者対応訓練や実効性のある避難訓練を実施し、児童・教職員の危機管理意識を高める。③については、地域の人材を活用し、こども園と小学校の連携を強化する。保幼小間の交流活動を、年間を通して計画的に実施し、教員間の連絡会も適宜行い、連携を深める。
Ⅲ 学校への信頼			参観日や運動会などの学校行事、学P行事、体験学習は、人数制限なく計画通り実施することができた。学年懇談の内容については、各学年が文書を通じて家庭へ周知した。保護者アンケートの「学校は保護者の意見を聞き、学校運営に反映していると思うか」の肯定的意見は91.4%で、昨年度より7.6%向上した。	B	安全点検や避難訓練が定期的に実施され、児童の防災意識の向上にもつながっている。緊急時に冷静に行動できるよう、より実践的な訓練を行い、児童自身が自分の身を守る力をも身に付けられるようにしてほしい。今後も実効性のある安全対策を進めてほしい。	B	
			コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の取組は、計画通り進めることができた。朝の丸付けや読み聞かせ、授業支援や学校行事のサポートなど、保護者や地域の協力を得ながら実施された。本校の教職員だけでなく、児童も地域の支援に感謝しており、地域とともにある学校づくりを推進している。	B	地域との連携が深まり、学校全体が地域と共に成長している。こども園・小学校・中学校のつながりも強まり、地域の力を生かした教育が着実に進んでいる。今後も地域との関わりを大切にしながら、より良い学びの場をつくってほしい。	A	

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要